

は顆粒層が欠如する（図 21.4）。中央陥凹部では表皮が菲薄化する。

治療

角質溶解剤外用，外科切除，電気凝固，凍結療法，削皮術，レチノイド投与など。慢性で難治性である。

B. 毛包系腫瘍 follicular tumors

1. 毛包腫 trichofolliculoma

表面平滑な 5～10 mm ほどのドーム状の小結節あるいは丘疹で，顔面，とくに鼻部やその周辺に好発する（図 21.5）。中央部に角化性小陥凹がみられ，その部位に羊毛に似た複数の幼弱毛（ぜいもう）が生えることが特徴である。病因は不明であるが，内・外毛根鞘と毛乳頭などを含む全毛包性分化を示す良性腫瘍と考えられている。

2. 毛包腺腫 trichoadenoma

直径 1.5 cm 以下の単発性で弾性硬の結節。顔面に好発する。毛包腫と毛包上皮腫の間の分化を示す腫瘍と考えられる。正常真皮との境界は明瞭で，真皮内に多くの角質嚢腫や充実性細胞塊を認める。

3. 毛包上皮腫 trichoepithelioma

基底細胞様細胞を主体とし，毛乳頭などへの分化傾向も伴う毛芽由来の良性腫瘍である。鼻周囲や眉毛部，上口部，頤部，おとがい頬部に直径 2～10 mm 程度，正常皮膚色の小丘疹がみられる。弾性硬で表面に光沢を有する。①単発性，②遺伝性を有する多発性，③病理組織学的に線維化の強い線維硬化性毛包上皮腫に分類される。

①単発性毛包上皮腫（solitary trichoepithelioma）

最も出現頻度が高い。遺伝性はみられない。病理組織学的には小角質嚢腫や基底細胞様細胞で構成され，間質が増殖する。基底細胞癌と鑑別の難しいものも存在するが，多くは分化が進んだ角質嚢腫で，不完全ながら毛乳頭の形成もみられる所見を有する。また，腫瘍塊と間質間に裂隙を形成しない点が基底細胞癌との鑑別になる。ときに周囲に異物反応や石灰沈着を認める。

②多発性家族性毛包上皮腫（multiple familial trichoepithelioma）



図 21.5 毛包腫 (trichofolliculoma)
中央部に角化性小陥凹がみられ，複数の幼弱毛が生えている。



図 21.6 多発性家族性毛包上皮腫 (multiple familial trichoepithelioma)
正常皮膚色，2～10 mm 大の半球状の硬い丘疹が多発。



図 21.7 線維硬化性毛包上皮腫 (desmoplastic trichoepithelioma)
5 mm 大, 辺縁が隆起し小環状結節が縁取りする。



図 21.8 毛母腫 (pilomatricoma)
直径 1 ~ 2 cm の軽度圧痛を伴う皮下結節。水疱形成や淡紅斑を伴うこともある。

過形成, 腺腫, 上皮腫

MEMO 

〔同義語：多発性丘疹状毛包上皮腫 (trichoepithelioma papulosum multiplex)〕

女子にやや多い。常染色体優性遺伝形式をとり家族内発生がある。本症の原因として cylindromatosis gene (CYLD 遺伝子) の異常が同定されている。思春期に初発し、常色の小丘疹が鼻を中心に出現、多発する (図 21.6)。結節性硬化症の顔面血管線維腫 (20章 p.395 参照) に類似するが、白斑や粒起革様皮膚など他症状の有無で鑑別可能である。必要に応じて単純切除やレーザー療法を行うが再発しやすい。

③線維硬化性毛包上皮腫 (desmoplastic trichoepithelioma)

比較的若年成人女性の頬部, 額部, 鼻部などの顔面に好発し, 正常皮膚色から淡黄色で数 mm ~ 1 cm までの環状結節ないしは局面を呈する。辺縁が隆起し, 中央が陥凹するのが特徴である (図 21.7)。病理組織学的に腫瘍細胞の索状増殖や多数の角質囊腫, 硝子化した膠原線維をみる。基底細胞癌との鑑別が困難なものもある。

4. 毛芽腫 trichoblastoma

好発部位は顔面や頭部で, 半球状に隆起した結節ないしは皮下結節。毛包の毛芽細胞 (follicular germinative cell) に類似した腫瘍細胞と, 線維性間質で構成されている。脂腺母斑に伴って生じる場合もある。基底細胞癌との鑑別が困難なものもある。毛包上皮腫との異同が論議されている。

5. 毛母腫 pilomatricoma

同義語：石灰化上皮腫 (calcifying epithelioma), 毛根腫 (pilomatrixoma)

症状

幼小児の顔面, 頸部, 上肢に好発し, 通常単発性の直径 1 ~ 2 cm までの硬い皮内および皮下腫瘍。表面は常色ないし青白く透見され, 凹凸に富み骨様硬に触知する (図 21.8)。ときに水疱様外観を呈する。自覚症状はないが, ときに軽度の圧痛を伴う。二次感染を生じて炎症性類表皮囊腫 (p.417) と区別がつかなくなることがある。筋緊張性ジストロフィー症で多発することがある。ごくまれに癌化することがあり, 毛母癌 (pilomatrix carcinoma) という。

病因

毛隆起 (hair bulge) から発生する奇形腫の一種。βカテニ